

# EDIサービスシステムの高信頼化

Progress of EDI Service System Reliability

Minoru Yoshida, Katsuhiko Hatano, Yosuke Matsuura

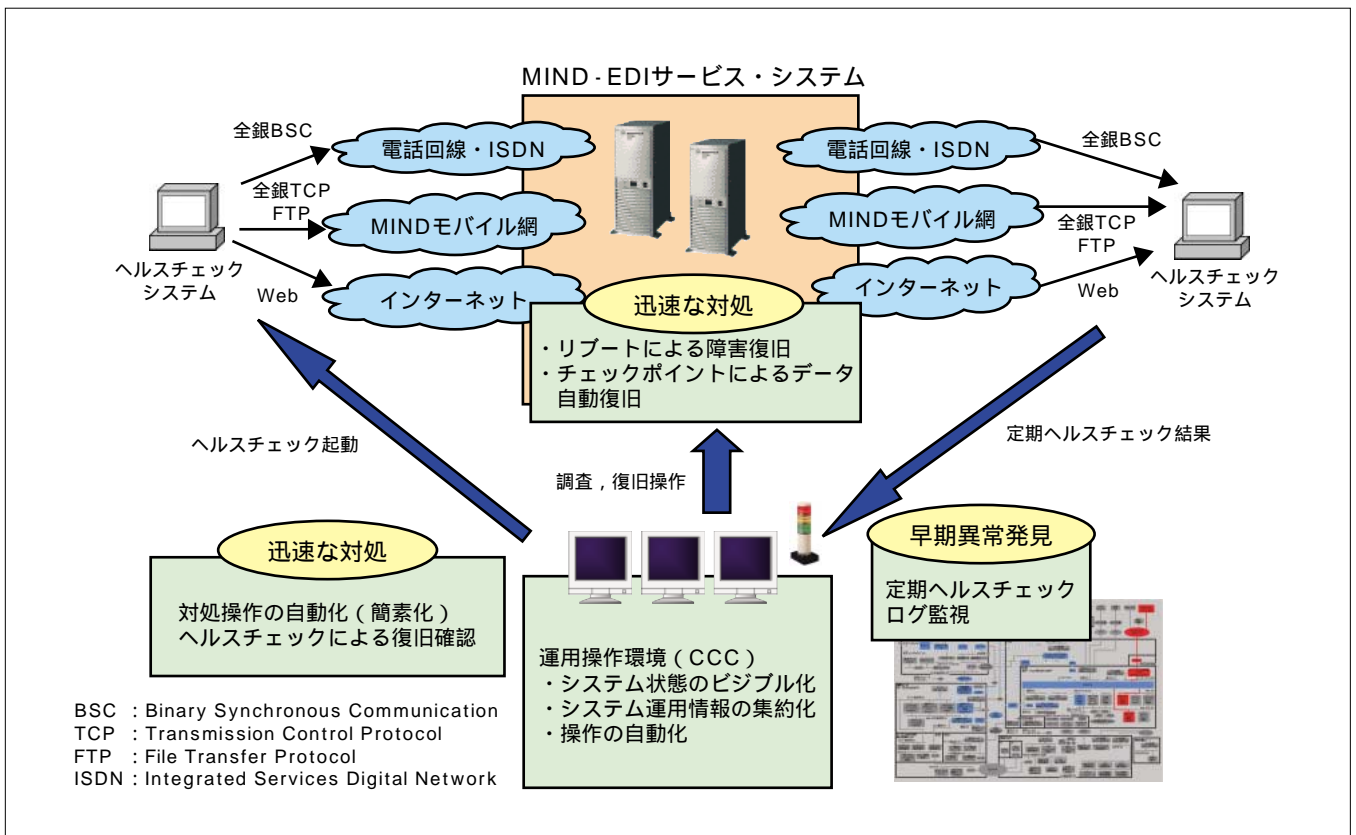
## 要 旨

EDI( Electronic Data Interchange )サービスシステムのダウンサイジングを機会に信頼性の向上機能を盛り込んだ。

サービス停止時間を極小とするため、システムの異常を早期発見し、迅速に対処する機能を実現した。早期発見のため従来システムにおける監視のように、想定した異常の発生を検知する“点監視”から、一連の処理がすべて正常に完了していることを監視する(言い換えれば、どこかに異常が発生したかを監視する)“線監視”に変えた。これはヘルスチェックと呼ぶシステムで、ネットワークを含めてEDIシステムをブラックボックスと見なし、擬似利用者がデータを投入し、その処理結果のデータを確認することで正常稼働を確認する。さらに、処理パターンを網羅することで、“線監視”から“面監視”へと進めている。定期的にヘル

ルスチェックを行うことで、システムの監視を行っている。ヘルスチェックは異常時の対処を含めてCCC( Command Control Center )を中心に実現されている。CCCは情報のビジュアル化、集約化、操作の自動化をめざした運用環境である。異常範囲はCCCによってネットワーク構成図上に表示され、操作員は障害解析シートに従って、原因を絞り込み、復旧を行う。復旧のための操作もCCCでボタンやネットワーク構成図上のサーバをクリックすることで迅速に行える。

新システムでは最悪の場合でもリポートでサービスを再開させることができる。新システムの処理ではチェックポイントをとつつ動作しているため、リポート復旧時は処理中のデータの復旧も自動化されている。



## EDIサービスシステムの高信頼化

MIND(三菱電機情報ネットワーク株)-EDIサービスの高信頼化技術を示す。新たな監視システムとしてヘルスチェックを実装した。これは擬似利用者がEDIシステムの正常稼働を監視するものである。監視結果はCCCという運用操作環境で表示される。正常時はもちろん、異常時の操作もすべてCCCで行われる。